

簡易宿所営業における玄関帳場等に関する効率化事例集について

旅館業法の簡易宿所営業については、「旅館業における衛生等管理要領」において、玄関帳場等の設置が望ましいとされています。

これについて、令和6年6月21日に閣議決定された「規制改革実施計画」において、各事業者が既に行っているデジタル技術の活用による効率的な事例を収集・公表し、新規参入希望者を始め事業者が参考にできるよう横展開を図ることが求められています。

こうしたことを踏まえ、簡易宿所営業における宿泊者の本人確認等の業務について、玄関帳場等の代替設備として認められているICTを活用した方法等により効率的に運用されている事例をまとめましたので、事業の運営等に当たってご活用ください。

事例① 事業者A（香川県高松市）

ICTによる顔認証等による無人チェックインの仕組みを導入している事例
（施設構造：一棟／複数物件）

事例② 事業者B（福岡県福岡市）

二次元コード認証等による無人チェックインの仕組みを導入している事例
（施設構造：一軒家、アパートの一室）

事例③ 事業者C（東京都、大阪府 等）

ビデオ通話による遠隔チェックインの仕組みを導入している事例
（施設構造：一棟、一棟ビル、アパートの一室など）

※掲載されている事例は、住宅宿泊協会（JAVR）の協力を得て収集。

事例① 事業者A（香川県高松市）

施設概要

所在地：香川県高松市庵治町
施設構造：一棟 複数物件

宿泊者の本人確認

Simple Inというシステムを活用し、無人セルフチェックインを実施。Simple Inでは、**事前にチェックインシステムから氏名、住所、連絡先、生年月日など宿泊者情報の入力と、免許証などの顔写真付きの身分証明書をアップロードしてもらう。**チェックイン当日に、玄関の**タブレットにあるカメラで顔写真を撮影。ICTによる顔認証に加え、事前に入力された本人情報を確認の上、チェックイン。**

チェックイン手続きが完了すると、電子鍵の開錠に使用するパスコードがタブレットに表示され、電子上にパスコードを入力すると入室が可能となる。

なお、チェックインの際、画像不鮮明などでエラーが生じた場合は、自動的に再撮影をするようにメッセージが出されるなど、**基本的に人手をかけずに確認が完了する仕組み**となっている。

simple IN



多言語対応
(5言語)



パスポート情報
取得機能



オンライン
物販機能



本人認証機能



ウェブ対応
(インストール不要)



キャッシュレス

Simple In HPより
<https://banri19.com/#anchor01>

不審者の侵入等の防犯対策

施設への侵入経路に防犯カメラとセンサーライトを設置。**防犯カメラの映像はPC・スマートフォンからリアルタイムで確認することが可能**で、防犯カメラの前を人が通ることでセンサーライトが発動し、映像が明るくなり変化に気が付くことができる。宿泊者も、センサーライトの点灯に気づき、不安を感じた場合は、**施設にある固定電話から運営事業者にコンタクトすることが可能**。防犯カメラは録画機能もあるので、**警察等から問い合わせがあった場合に録画内容を確認することもできる。**

また、**電子鍵はチェックアウトした後、ランダムで番号が付与され変更**される。



赤：カメラ（モーションセンサー、音声通話）
緑：タブレット置場
青：電子鍵



チェックイン用のタブレット

緊急時の駆け付け対応

全ての施設に室内専用固定電話を設置し、全てのスタッフに同時着信。また、**現地の集落の住民を清掃員として業務の一部を委託**しており、仮に現地に駆け付ける必要が生じた場合には、**現地の清掃員に駆け付け対応を依頼**する。

事例② 事業者B（福岡県福岡市）

施設概要

所在地：福岡県福岡市
施設構造：一軒家、アパートの一室

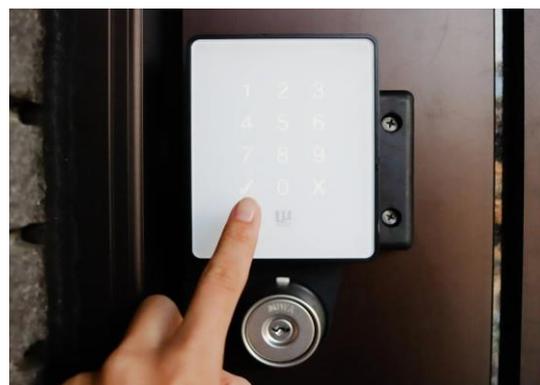
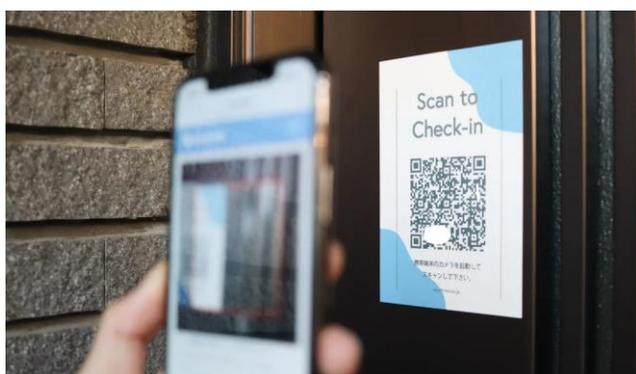
宿泊者の本人確認

Smart Innというシステムを活用し、無人セルフチェックインを実施。事前にオンラインで氏名、生年月日、住所、連絡先など宿泊者情報の入力と本人確認書類のアップロードを行ってもらう。

チェックイン時にSmart Innのアプリから「チェックインボタン」*を押すことでカメラを起動させ、玄関等に設置した二次元コードを読み取ることで現地確認と本人確認を行う。それらの確認ができれば、スマートロックを開錠するための暗証番号が表示される。
*「チェックインボタン」は事前に宿泊者情報を入力するとチェックイン日に操作が可能になる。



Smart Inn HPより
<https://biz.smart-inn.co.jp/minpaku-daikou#service>



不審者の侵入等の防犯対策

チェックイン時に予約を取った人物と違う人がチェックインをしようとした場合には、Smart Innのアプリによる顔認証でエラーが発生し、宿泊事業者に通知される仕組みになっている。それ以外については、防犯カメラの設置によって不審者の確認を行っている。

暗証番号を取得する際に必要な暗証番号はランダムで変わるスマートロックを採用している。

緊急時の駆け付け対応

福岡市内の物件は原則として10分以内に駆け付けられる体制としている。遠隔地など自社で体制を構築できない場合は、第三者に駆け付けを委託している。

事例③ 事業者C（東京都・大阪府等）

施設概要

所在地：東京都・大阪府等

施設構造：一棟、一棟ビル、アパートの一室など

宿泊者の本人確認

玄関前などに設置したタブレットでのチェックインシステムを活用して、担当者が宿泊者との双方向性通信としてビデオ通話を行い、本人確認及び宿泊に関する注意事項説明を行っている。鍵はスマートロックを採用しており、本人確認等が完了すると、タブレットにスマートロックの開錠に使用する暗証番号が表示され、入室が可能になる。



M2m Check-in（多言語対応）



パスポートの情報をアップロード

不審者の侵入等の防犯対策

各自治体のルールに基づき、宿泊者及び宿泊者以外の出入りの状況を確認する防犯カメラを設置している。鍵はスマートロックインを使用しており、紛失することがないため鍵トラブルが著しく減少。



監視カメラ



スマートロック

緊急時の駆け付け対応

各自治体のルールに基づき、駆け付け拠点を設けているが実際に夜間駆け付けるに至った事例はごくわずか（年間22件、発生率6%）。物件によって警備会社と契約し、緊急時対応を委託。